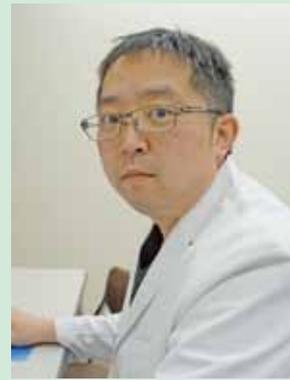


## 私のカルテ

No. 406

津島市民病院  
脳神経外科医長川口  
礼雄

## 脳梗塞急性期治療の進歩

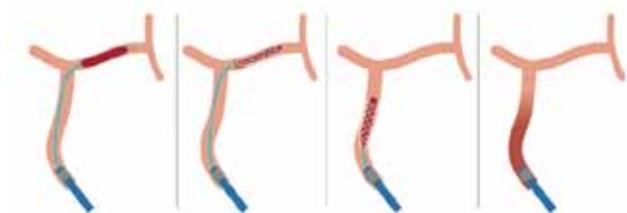
## 脳梗塞の症状

脳梗塞は血管が血栓によって詰まる病気です。脳梗塞の症状としては「片側の手足が動かない」「顔面のゆがみ」「呂律が回らない」「思ったことが言葉にできない」「他人の言うことが理解できない」「眼が左右どちらかに寄っている」「意識障害」などがあります。このような症状が一つでも突然起きた際には脳梗塞などを強く疑います。

## 脳梗塞治療

以前は脳梗塞を改善する治療はなく、脳保護薬点滴、脳梗塞再発予防、リハビリテーションが主な治療でした。最近では詰まった血管の流れを取り戻す治療が行われています。2005年より、脳血管を詰まらせていた血栓を溶かす「t-PA」という薬が登場しました。2010年ごろからは詰まった血管にある血栓をカテーテル治療(ステント、吸引デバイス)にて取り除く「機械的血栓回収療法」が行われるようになり、2015年に有効性が証明されました。

早い段階での再開通は脳梗塞の範囲を最小限にとどめることができ予後改善にもつながります。



ステントにて血栓を捕捉しカテーテルの中に引き込み再開通させます

## 治療の鍵は時間

脳梗塞の治療は日々進歩しており、最近ではカテーテルを使った治療を行うことで、社会復帰が可能な人が増えています。そのためには、なるべく早く治療を行うことが必要です。



時間と共に脳梗塞の範囲は拡大します

発症から治療までの時間が早ければ早いほど脳梗塞の拡大が抑えられ、治療による合併症(脳出血)を減らすことができ、より多くの脳を救済することが可能になります。カテーテル治療は発症から8時間以内(一部24時間以内)の方のみが治療を受ける事が可能です。脳卒中を疑う症状が出現した際には一刻も早く医療機関を受診することをお勧めします。

## 脳卒中(脳梗塞)に関して

2019年に「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」(脳卒中・循環器病対策基本法)が施行され、マスコミなどでも脳卒中という言葉が聞くことが多くなりました。脳卒中とは一般的に、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞をまとめた表現です。脳梗塞は血管が血栓によって詰まる病気です。

## 脳梗塞は大きく3つのタイプに分けられます

- (1)ラクナ梗塞:脳の深部にある細い血管が動脈硬化などにて詰まる
- (2)アテローム梗塞:比較的太い血管が動脈硬化などにて細くなり、そこで血栓を形成し血管が詰まる
- (3)脳塞栓症:心臓など脳血管とは別部位で血栓が形成され、血流にて脳血管へ運ばれ詰まる



(1)ラクナ梗塞

(2)アテローム梗塞

(3)脳塞栓症

当院では24時間救急の受け入れ態勢を整えており、上述の脳梗塞治療も可能です。何か気になることがあればいつでも受診してください。